太宰府の文華～公文書館だより151～

公文書館にあるモノ資料2
―古いトランク

ページID：16406

公文書館だより147では、公文書館が所蔵するモノ資料を紹介しましたが、今回もモノ資料の一つ、あるトランクを取り上げます。

両側に持ち手が付いた革張りのトランク、蓋の内側には墨で大きく、持ち主の名前と当時住んでいた市町村名が書かれています。しっかりとした重いもので、もともと中には、持ち主の夫であった軍人・古城戸茂八郎（ふるきどもはちろう）の遺品がぎっしりと収められていました。

古城戸茂八郎は旧太宰府町の出身で、18歳の時に現役志願し陸軍に入隊。遺された資料から分かる彼の従軍歴は、まずは大正期のもので、シベリアでの功績により、大正9（1920）年に勲章を受章しています。次に分かる軍歴は、昭和12（1937）年から14年にかけてで、准尉として中国大陸に出征し、中部から南部に転戦しますが、昭和14年12月30日に梅坑（広東省）において39歳で戦死します。

トランクの中にあったのは、彼の軍人としてのキャリアを飾る勲章・記章類や軍隊手帳、彼の死に対する弔辞や葬儀関係の帳面ですが、多くを占めたのは、戦地から家族に宛てた手紙でした。妻と3人の子どもたちそれぞれに送ったもので、現地の気候や生活、たまに同郷の出征者の安否を伝え、家族については毎回細やかにその健康を気遣っています。特に、当時小学校高学年だった長男に対しては、時折、「知人にお礼を伝えてほしい」などのちょっとしたミッションを与えており、戦地に居ながらも親子の繋がりをしっかりと育もうとしていた茂八郎の、父親としての姿が見えるのではないでしょうか。

終戦を境に日本では価値観が逆転し、トランクの中身はしばらく家族の間だけで秘されていましたが、このトランクにしっかりと護られ、現在に想いが伝わりました。公文書館のホームページに資料目録を掲載しています。ぜひご覧ください。



太宰府市公文書館　藤田（ふじた）　理子（まさこ）